

# 基本施策評価シート

基本施策最終評価

B

基本施策通し番号 28

基本施策 定住の促進

構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	定住情報の提供とサポート体制の強化	B
施策2	定住促進対策	B
施策3	空き家の利活用の促進	B

## 成果指標

指標	内容	平成32年度 目標	平成30年度末 実績	単位	平成30年度の成果の検証
定住受け入れ件数	平成20年度以降にIJU(移住)サポートチームが支援し、大野市外から大野市に定住した累積件数	64	95	件	移住希望者へのきめ細かなサポートや空き家情報バンクの充実などが実を結び、平成30年度の定住受入件数は7件となった。相談件数・定住受け入れ件数ともに増加傾向にあり、既に目標数値を達成している。
定住のための住宅取得等助成件数	定住のための住宅取得及びリフォームに対する助成の累積件数	350	361	件	平成30年度の助成件数は15件で、定住の促進に寄与した。平成32年度の目標数値の350件を達成した。
空き家情報バンク制度成約件数	空き家情報バンクの契約成立累積件数	20	30	件	定住促進ポータルサイトで情報を発信したことで、新規登録件数は6件、成約件数は9件となった。

## 後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現状	人口減少と少子化・高齢化が進展する中、空き家の増加、農林業などの後継者不足や地域コミュニティの維持が困難になるなどの問題が生じている一方、都市圏でのスローライフへの関心や田舎暮らし志向の高まりを受け、全国的に地方移住に向けた取り組みが行われている。
課題	大野市の認知度と魅力度を向上させ、都市圏からの移住促進と、進学や就職のために移住した若者の本市での定住を促進する取り組み、また、優良な空き家は、中古住宅として効果的な利活用を促す必要がある。

## 社会情勢・市民ニーズの変化

- ・人口減少や少子化・高齢化が一層進み、農林業などの後継者不足や地域コミュニティの衰退、空き地や空き家の増加などの問題が加速化している。
- ・空き地や空き家に関する法令や条例が整備されたことで、行政に対する空き地・空き家対策への期待が高まっている。

## 現在の「現状」と「課題」

現状	・移住相談件数・定住受入件数ともに年々増加傾向にあるものの、都市部に向けて効果的なPR策を実施できていない。 ・空き家所有者に対し、空き家情報バンク制度の周知を進めているが、登録物件数は先進地に比較し、もの足りない。
課題	都市部での効果的なPR策と、空き家情報バンクの充実のための登録物件数の増加。

## 基本施策の「成果」

成果	・本市を来訪し、田舎暮らし体験を希望する相談者が増加した。 ・定住のための住宅取得及びリフォームに対する助成の累積件数が平成32年度の目標数値を達成し、定住の促進に寄与した。 ・空き家情報バンクの登録・成約件数においても一定の成果を挙げることができ、新規登録件数は6件、成約件数については過去最高の9件となった。 ・家庭菜園をはじめとした農業に関心のある移住希望者を呼び込むため、農業委員会に対し、空き家に付随した農地に限り農地取得の下限面積を1アールとする新たな基準の設定を提言し、実施。この制度を利用し、1組が本市へ移住した。
----	--

## 改善点

- ・本市に興味・関心を持ってもらうための取り組みを強化し、関係人口を増やしていくことを通じて、将来的な移住者の獲得につなげることを目指す。
- ・中京圏へのPRを強化するため、連携中核都市圏の他市町と連携し、中京圏で開催される移住フェアへ出展する。
- ・みずコアカデミーの参加者を移住に繋げるため、湧水再生対策室と連携し、参加者に対し定期的に本市の情報を発信する。